

2021年3月

1、本園の教育理念・目標

名前 酒井義信

元気な子 元気で明るく、たくましく、生き生き活動できる子  
 つよい子 やさしい心もち、はい、ありがとう、すみません、わたしがしますと言える心のつよい子  
 創造する子 よく見、よく聞き、よく話し、個性豊かにのびのび表現、創造する子

- ・あらゆる環境に能動的に働きかける事ができる心と体を育てる。
- ・集団生活を通し、他者の自由を認める事ができる心を育てる。
- ・自己目標に向かっていける心を育て、自己肯定感を育てる。
- ・リスクという危険を体験し、危険予知能力を高める。

2、本年度、重点的に取り組む課題

年長を幼稚園の中心として、幼稚園生活を送ることによってどのような変化があったのか？教育方針、学年、学期に関連付けて考察する。

○一年を通して、一人一人の遊びを探求し、環境を整える。

○子どもへのアプローチを三角形（間接的）をイメージしながら保育を行う。

3、評価項目の達成及び取組状況

【評価基準】 A 十分達成されている（おおむね80%以上）  
 B ほぼ達成されている（60%～80%くらい）  
 C 取り組まれているが成果が十分でない（40%～60%くらい）

評価項目	結果	理由
幼稚園の教育課程の編成・実施に関して教職員間の共通理解は図られていたか？	A	学年打ち合わせで、保育記録をもとに反省を行い、次の指導計画が立てられていた。この反省を活かして、長期指導計画にもとづいて短期の指導計画が立案されており、教育課程の共通理解が図られていた。
長期的に保育を計画し、実践していたか？（一年の流れを把握し、適切に職務する。）	A	行事では日常の保育を活かして、内容を子ども達と一緒に考えてつくり上げていた。行事があるからこの活動をするのではなく、長いスパンで保育内容を見通して日々の保育を行っていた点が評価できる。
保育の質の向上のために、研修及び学びの場を充実させていたか？（職務向上の為に必要なスキルを身につけ向上させる）	B	コロナ禍で研修会の開催が少ない中で、実施された研修会に参加するとともに、リモートによる研修会にも参加していた。また、三密にならない工夫をして園内研修が保育部、幼稚園ごとに実施されていた。
保護者のニーズと把握に努め、要望や苦情に適切な対応ははかれたか？	A	密になる参観日や懇談会が実施できない中で、オンラインによる行事の映像配信やバスキャッチによって園と保護者や家族とのつながりを深めていた。保護者のニーズを連絡帳の活用等によって汲み取り、素早く対応していた。
保育以外の職務に対しても積極的に動き、よりよい環境をつくられていたか？	B	認定こども園となり園舎が大きくなり教職員も多くなって2年目を迎えた。スムーズに職務を行うために、お互いがコミュニケーションをとりあえる時間や場を活かして協力していた。
安全管理（施設、設備、通園など）を日々行っていたか？	B	園庭には、遊び保育のために色々な施設が設置されている。そのため、ケガがないように一人ひとりの子どもを見守ることや施設の安全を点検することが大切になっており、教職員が協力して安全管理に取り組んでいた。

#### 4、2020年度の感想など

コロナ禍で今までと違った対応が求められた1年間でしたが、日常の感染予防、行事での対応、保護者との対応と大変だったと思います。一人ひとりがしっかり対応して、大きな混乱もなく保育が行えたことは、教職員一同の努力によってだと考えます。

#### 5、2021年度に向けて要望など

コロナ禍で研修会の開催が少ないと思いますが、園内研修など可能な研修を取り入れて保育技量の向上を図っていただきたいと思います。  
また、コロナ禍でも教職員の意思疎通が十分に行えるような場や方法をさらに工夫してほしいと思います。